全身の健康に関する調査研究は広がりをみせている。

その一方で、研究の成果が具体的な施策や事業にどのように結びつくのかが明確ではなく、歯科以外の保健医療福祉関係者の認知が必ずしも十分ではない等の問題点が指摘されている。

（２）今後の方向性

口腔の健康と全身の健康の関係という課題が重要である以上、これに関する研究は歯科領域の評価にとどまらず、他の保健医療福祉分野から高く評価される内容であることが必要であり、さらには、歯科保健医療関係者と他の保健医療福祉関係者が連携して国民の口腔と全身の健康をともに向上していくための具体的方策を提示するための研究を推進していく必要がある。

なお、研究成果が、保健医療福祉関係者、ひいては住民に広く周知・還元されるようにすることも不可欠である。

３　今後の歯科保健医療の予測

（１）今後の歯科保健医療の予測

平成 17 年度の厚生労働科学研究「新たな歯科医療需要等の予測に関する研究」（以下、「予測研究」という。）において実施された、歯学部・医科大学口腔外科教授及び都道府県歯科医師会長を対象としたアンケート調査の結果では、次のとおりである。

- 需要が増加すると考えられる分野として、予防歯科（歯科疾患の予防管理並びに健康増進）、インプラント、高齢者歯科、審美修復等をあげている。その理由は、予防については、国民の意識の変化、人口構造の変化、疾病構造の変化を、インプラントについては、ＱＯＬの向上をあげており、技術研究の充実等の必要性もあげている。
- 需要が減少すると考えられる分野として、小児歯科、保存、補綴等をあげており、その理由は、大学教授では少子化を、都道府県会長は予防の成果と答えている。また、補綴の減少については予防の効果とインプラントへの移行をあげている。
- 今後 10～20 年間に歯科保健医療に組み込まれる必要があると考えられる領域として、都道府県会長は検査・診断、再生医療、歯周疾患の予防のための禁煙指導、在宅訪問及びいわゆる有病者に対する歯科治療をあげている。
- 口腔保健の向上が全身疾患の予防または進行防止に関与していることを一般に普及させるための具体案として、歯周病と全身疾患との関係に

ついては、国民への啓発やマスメディアの活用等をあげており、誤嚥性肺炎の予防については、大学教授は国民への啓発と医科との連携、基礎・臨床研究の充実を、都道府県会長は国民への啓発をあげている。

・　また、歯科保健医療の「全身の健康の保持増進」への寄与については、歯周病、口腔ケア、咬合、食生活、アンチエイジング、睡眠時無呼吸症候群への対応等をあげている。

（アンケート調査の結果から）

今後需要が増加する、あるいは今後歯科保健医療に組み込まれる必要があるとしてあげられた分野のうち、インプラント、審美修復、再生医療、歯周疾患予防のための禁煙指導等は、医療保険の給付外の項目であるが、これらの医療サービスが安全かつ質の高いものとなるよう、歯科医育機関の関係者、日本歯科医学会、日本歯科医師会等の協力のもとに、患者の視点を重視して、サービスを担当する歯科医師等の知識・技術の確保をはじめとした幅広い対応や、新たな歯科保健医療制度の在り方等、今後、中長期的視点からの検討が必要であると思われる。なお、インプラントのような侵襲性が大きく、高額な治療については、国民・患者の安心・納得のため歯科医師は治療前の説明及び治療に関して一層の責任があると考える。

（２）科学的根拠に基づく歯科医療

良質で効率的な医療の提供には、科学的根拠に基づく医療を実践することが重要である。

医科領域においては、かねてからＥＢＭ手法による診療ガイドラインの作成が進められているが、歯科医療については、外科的な処置や修復物・補綴物などの印象、調整、装着などを中心とした手技の占める比重が高いという特徴があり、医科領域とは異なったガイドラインの作成・活用の手法も必要である。このため、現在進められている厚生労働科学研究の成果等も踏まえつつ、歯科医療における診療ガイドラインの在り方の検討を早急に進め、これらの作成とその普及を図っていく必要がある。

第２　歯科医師の資質向上等

１　歯科医師の資質向上

（１）歯科医師養成課程における資質向上

望ましい歯科医師像については、これまで、「歯科医師養成の在り方に関する検討会報告書」（平成７年）や「歯科医師臨床研修の到達目標」（平成１７

年）などにおいて示されてきたところであり、今日の歯科医師にも適用される内容である。

しかしながら、１８歳人口の減少による大学全入時代を迎える中、大学歯学部に入学する学生の資質の低下が指摘されており、態度・知識・技術のすべてを高い水準で兼ね備えた歯科医師を継続的に養成・確保していくためには、大学教育課程における教養教育を含めた教育内容、教育方法の充実などとともに、歯学部入学時点において歯学部で学ぶために必要とされる資質を有する学生を確保するための対応も重要である。

歯学部入学時及び在学中の学生について、特に重視すべき資質は次のとおりである。

① コミュニケーション能力を有すること

将来、歯科医師として医療に従事する上で、患者をはじめ、医療スタッフ等とのコミュニケーション能力は安全で質の高い医療を提供するために不可欠であるが、学生の一部には、この基本的能力が欠如している者が認められる。コミュニケーション能力については大学入学後の教育のみで対応できるものではなく、入学時点において一定のコミュニケーション能力を有していることが不可欠である。

② 歯学部入学時に一定の学力を有すること

歯学部入学後に専門教育を理解・習得し、さらには、大学院等で研究的思考方法を習得するためには、一定の基礎学力を有することは必要条件である。中でも、すべての教育の基礎であり、患者等とのコミュニケーションに不可欠な国語力、英文専門雑誌を理解する基礎となる英語力、ＥＢＭを理解するために必要な統計学の基礎となる数学は重要である。また、将来、歯科医療及び公衆衛生を掌る者として、自然科学の知識も必要である。

③ 社会人および医療人として信頼されること

患者本位の歯科医療を実践するため、生涯を通じて意欲的に研鑽を積む姿勢は、どのような分野であれ、望ましい社会人として求められるものである。そのためには、早期に職業倫理を持ちうるに足る本人の資質と、その資質を醸成するための教育の充実が望まれる。

④ 安全で適切な歯科医療を行うための基本的資質を有すること

安全な歯科医療の実践には、専門知識と技術に裏付けされた優れた判断力及び危機管理能力が重要であり、「クールヘッド、ウオームハート」と称される沈着冷静な精神情緒を有することが望まれる。

また、臨床研修開始時点における基本的歯科医療手技に関する習熟度のばらつきを問題点として指摘する声があり、歯科医療の精微な技術を